

日本ヘルスコミュニケーション学会 第8回学術集会 プログラム

2016年9月10日 (土)

会場：東京大学医学部 教育研究棟

時間	14階 鉄門記念講堂	13階 第5セミナー室	13階 第8セミナー室	13階 第6セミナー室	14階 ポスター会場	13.5階 情報交流の場	
9:30~10:00	共催セッション2： 医療の質に関する研究会 「ヘルスコミュニケーションの 未来を考えるーリテラシーから ビヘイビア、そしてムーブメン トへー」			共催セッション1： がん相談研究会 「がん相談におけるセ クシュアリティとコ ミュニケーション」	ポスター掲出		
10:00~12:00		口演 1	口演 2		自由閲覧		
12:00~13:00	昼食						
13:00~14:00					ポスター セッション 1	ポスター セッション 2	
14:00~14:20	情報交流の時間						
14:20~16:00	基調講演： 写真が語るいのちのバトンリ レー ～看取りの現場から～ フォトジャーナリスト 國森 康弘 氏						
16:00~16:20	情報交流の時間						
16:20~17:30	シンポジウム： ことばにならない思いとケア ～受け止める、投げかける、分 かち合う～ 山口赤十字病院社会福祉士 橘 直子 氏 関西学院大学神学部准教授 榎本 てる子 氏 浦河ひがし町診療所院長 川村 敏明 氏						
17:30~18:00	表彰式・閉会						
18:30~20:30	懇親会 (13階 カボ・ペリカーノ)						

■ 基調講演

写真が語るいのちのバトンリレー ～看取りの現場から～
 フォトジャーナリスト 國森 康弘 氏

■ シンポジウム

ことばにならない思いとケア～受け止める、投げかける、分かち合う～

山口赤十字病院社会福祉士 橘 直子 氏
 関西学院大学神学部准教授 榎本 てる子 氏
 浦河ひがし町診療所院長 川村 敏明 氏

日本ヘルスコミュニケーション学会 第8回学術集会 プログラム

口演1 プログラム (13階 第5セミナー室) 座長：高永 茂 (広島大学大学院文学研究科) 岩隈 美穂 (京都大学大学院医学研究科)

番号	発表者	所属(筆頭著者)	演題
K1-01	鳥嶋 雅子	京都大学医学部附属病院	がん告知時の医師の態度・言葉と患者の受け取り：前立腺がん患者の語りを対象とした質的分析
K1-02	太田 龍一	雲南市立病院	診療所待ち時間対策から見た高齢者の待ち時間への思い 質的研究
K1-03	莊子 万能	大阪医科大学	医学生は、患者視点をどのように学ぶことができるのか。～リウマチ患者へのインタビューを通じて～
K1-04	松下 翔	東京大学医学部医学科	病気の子どもとご家族のための滞在施設は、利用者およびボランティアにとってどんな意義があるか
K1-05	孫 大輔	東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター	プライマリケアで用いられる医学用語の医療者と市民・患者の認識ギャップ(第2報)
K1-06	土屋 慶子	東海大学	英国の救急医療シミュレーション訓練におけるコミュニケーション分析：医療者の視線の動きを中心に

口演2 プログラム (13階 第8セミナー室) 座長：武林 亨 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学) 宮原 哲 (西南学院大学文学部)

番号	発表者	所属(筆頭著者)	演題
K2-01	栗崎 由貴子	新潟医療福祉大学 医療技術学部 言語聴覚学科	医療技術職養成校における対話手法の検討～テーマ設定の視点から～
K2-02	長谷 由紀子	広島大学大学院 医歯薬保健学系研究科	歯科衛生士のプロフェッショナリズムとコミュニケーション
K2-03	中山 千尋	福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座大学院	福島第一原子力発電所事故後の福島県地元紙と全国紙の報道について ～健康情報としての「内部被ばく」「セシウム」を含む記事の分析から～
K2-04	加藤 美生	東京大学大学院医学系研究科 医療コミュニケーション学分野	NHKテレビ・ドキュメンタリー番組が描いてきた病いと患者の語り
K2-05	市川 衛	日本放送協会	「見るだけで腰痛が改善する」映像の効果検証
K2-06	奥原 剛	東京大学大学院医学系研究科 医療コミュニケーション学分野	分かりやすさのカー健康医療情報の処理流暢性が受け手の判断に与える影響：文献レビュー

ポスターセッション1 プログラム (14階 ポスター会場) 座長：野中 昭彦 (中村学園大学流通科学部)

番号	発表者	所属(筆頭著者)	演題
P1-01	岡田 宏子	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 医療コミュニケーション学分野	乳がん患者のナラティブが受け手の健康行動に与える影響の検討ーディバックス・ジャパンのインタビューデータを用いてー
P1-02	後藤 英子	東京大学大学院医学系研究科 社会医学専攻 医療コミュニケーション学分野	日本人労働者におけるヘルスリテラシーと生活習慣、主観的健康感との関連
P1-03	小郷 祐子	国立がん研究センターがん対策情報センター	「先進的な医療の情報」を求める相談者への情報支援のあり方に関する予備的検討
P1-04	菅沼 太陽	東京女子医科大学医学部医学教育学教室	患者・薬剤師の後発医薬品変更に対する考え方
P1-05	石川 文子	国立がん研究センターがん対策情報センター	インターネット検索によって得られる「がんに関する情報」は正しいか

ポスターセッション2 プログラム (14階 ポスター会場) 座長：孫 大輔 (東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター)

番号	発表者	所属(筆頭著者)	演題
P2-01	松下 翔	東京大学医学部医学科	入院中の難病の子どもを持つ家族のための滞在施設に対する医療従事者の意識調査
P2-02	杉田 恵子	NPO法人フューチャー北海道	関係性というコミュニケーション～地縁コミュニティの再生から聞こえてくる“生”
P2-03	大石 美穂	佐賀県医療センター好生館	就労専門職がん専門相談員との連携をがん患者の就労支援の結果から考察する
P2-04	孝本 乃子	歯科小児歯科乃子医院	一般接遇研修を医療臨床の実態にテラリングするための考察
P2-05	杉田 稔	東邦大学	東京電力の福島原子力発電所過酷事故後のメディア報道

日本ヘルスコミュニケーション学会 第8回学術集会 プログラム

■共催セッション1 がん相談研究会共催

「がん相談におけるセクシュアリティとコミュニケーション」

講演

「性とセクシュアリティとコミュニケーション」放送大学教授 井上洋士氏

実践報告・討議

「性の問題に柔らかに向き合うために」

■共催セッション2 医療の質に関する研究会共催

「ヘルスコミュニケーションの未来を考えるーリテラシーからビヘイビア、そしてムーブメントへー」

講演（仮題）

「患者図書室からビヘイビアヘルスへの面的展開」NPO法人医療の質に関する研究会 理事・事務局長 田口空一郎氏

「志木市におけるビヘイビアヘルスの医療費削減効果」東京保健医療大学教授 山下和彦氏

「過剰医療検証と Choosing Wisely キャンペーン」 佐賀大学名誉教授 小泉俊三氏

総合討議：

登壇者

河原和夫氏（NPO法人医療の質に関する研究会 理事長、東京医科歯科大学教授）

河北博文氏（NPO法人医療の質に関する研究会 副理事長、日本医療機能評価機構 理事長）

小泉俊三氏

山下和彦氏

司会

田口空一郎氏（NPO法人医療の質に関する研究会 理事・事務局長）